

新基地建設反対名護共同センターニュース

台湾有事の際 沖縄が戦争に巻き込まれる



日本も戦争の現実的危険

谷山氏(写真)は、米国と中国の覇権争いによる台湾有事を懸念し、日本でも「戦争が現実起こり得る」と危険性を指摘しました。

JVC顧問の谷山氏が名護市で講演

へり基地反対協議会は16日、日本国際ボランティアセンター(JVC)顧問の谷山博史氏を講師に名護市内で「ウクライナ侵略と沖縄について考える学習会」を開きました。谷山氏は「ウクライナでなぜ戦争になってしまったかその経緯や歴史を知る必要がある」と話し、ロシアとヨーロッパに挟まれ翻弄されてきたウクライナの歴史やNATOとロシアの対立構図を説明しました。日本では安保法で集団的自衛権の行使が認められており、もし台湾海峡で有事が起これば沖縄本島を含む琉球諸島は戦争に巻き込まれる危険性がある。日本と台湾の市民が軍事オプシオンを思いとどまらせるように連携し、国際的な世論を高めていくことが重要だと訴えました。谷山氏は参加者の質問にも丁寧に応えました。

ウクライナ侵略と沖縄を考える学習会

保守革新を超えて「沖縄戦を二度と」

「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」が発足集会

石原昌家沖国大教授らが設立呼びかけ人となり「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」の発足集会が19日、沖縄市内で開催され会場に450人、オンラインで157人、計600人以上が参加しました。映画監督の三上智恵さんが司会し、共同代表の宮城晴美さん(沖縄女性史家)が開会挨拶、琉球新報報道本部長の新垣毅氏が基調講演を行いました。

この後、「ノーモア沖縄戦の会」共同代表の石原昌家氏、ダグラス・ラミス氏(国際政治学者)、具志堅隆松氏(ガマフヤー代表)が意見発表。平和運動センター顧問の山城博治氏が行動計画と集会決議を提案し、採択しました。

【決議文(要旨)】①政治信条や政党支持の垣根を越えて「沖縄を再び戦場にさせない」の思いと目的に県民の幅広い結集を呼び掛ける。②「台湾有事・尖閣有事」を口実とした対中戦争への反対を米日中政府と日本と世界の世論に訴える。③日米両政府の戦争計画を許さないために、平和な沖縄、平和な日本、平和な国際社会実現のため県と国の内外に連帯と活動を広げる。



基調講演で新垣氏(右写真)は今後の課題として、緊張を緩和する緩衝地帯を築くことの重要性を訴え、「隣国を大切に」「沖縄が一つになる」の原点に返ること。このため「オール沖縄」「島ぐるみ運動」の再構築、反核団体との連携、沖縄の自己決定権の確立が重要だと強調しました。



「コロナ禍の市民生活支援に全力」

沖縄市長選 モリ山氏が政策発表

4月24日投開票の沖縄市長選で「オール沖縄」から出馬を予定しているモリ山政和氏(73)は19日、政策を発表しました。モリ山氏は「新型コロナ対策を最優先課題に挙げ市民の医療と経済支援、女性や母子家庭の暮らしの支援へ、デニー県政と力を合わせてまい進する。米軍基地問題ではPFOS汚染などの環境問題や騒音問題の解決に全力をあげる。辺野古新基地建設に対しては「オール沖縄」の一員として反対を貫く。ウクライナ問題では沖縄の歴史と米軍が集中する現状と重ねて心を痛めている市民も多い。戦争には絶対反対する」など支援者に囲まれ、力強く政策を発表しました。



森林を伐採し美謝川切替へ工事強行



第3ゲートからは大浦湾が見えるほどに森林が伐採されています。(18日)

キャンプ・シュワブ隣の弾薬庫の第3ゲート付近で、防衛局が名護市所有地の森林伐採を大規模にすすめています。監視活動中の男性は「美謝川の切り替え工事のための資材置き場や仮設道路、駐車場をつくるため森林の伐採を乱暴に進めている。ここは国道が曲がりくねっており工事車両の出入りは危険。ここでも座り込み美謝川の切り替え工事を止めたい」と話しました。